

お 知 ら せ  
平成 29 年 9 月 8 日  
気 象 庁

## シンポジウム『気象衛星ひまわり～宇宙からの最先端データが 切り拓く未来～』を開催しました

- 静止気象衛星ひまわりの初号機が打ち上げられてから 40 年。この節目の年を記念して、シンポジウム『気象衛星ひまわり～宇宙からの最先端データが切り拓く未来～』を平成 29 年 7 月 22 日（土）に一橋講堂（東京都千代田区）にて開催し、様々な職業、幅広い年代の多数の方々にご参加頂きました。
- 講演では、40 年間にわたるひまわりの歴史について振り返りました。ミニプレゼン&パネルディスカッションでは、様々な分野における気象衛星データの利活用の現状と可能性についてパネリストから紹介いただき、新世代のひまわり 8 号・9 号の最先端データが切り拓く未来に思いを馳せました。
- 本シンポジウムで示された気象衛星ひまわりへの期待を受けて、気象庁では、これからもひまわりの安定した運用を継続することはもちろんのこと、その最先端データの利活用を促進することで、国民の皆様の安全安心に貢献することができるよう、関係機関とも連携し取り組んでまいります。

### 1. 開催概要

- (1) 日時：平成 29 年 7 月 22 日（土） 13 時 30 分～16 時 00 分
- (2) 場所：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内）
- (3) 主催：  
気象庁、気象ビジネス推進コンソーシアム、地球ウォッチャーズー気象友の会ー
- (4) 後援：  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局、文部科学省、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、気象業務支援センター、気象振興協議会、日本宇宙少年団、経団連宇宙開発利用推進委員会、日本航空宇宙工業会、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社、気象衛星ひまわり運用事業株式会社

### 2. 結果

当日は 400 名近くの方々に参加頂き、シンポジウムは盛況に終了しました。講演やパネルディスカッションの内容に関する概要等については、別紙を参照ください。

【本件に関するお問い合わせ先】  
気象庁 観測部 気象衛星課  
03-3212-8341（内線 2275）

## シンポジウム『気象衛星ひまわり～宇宙からの最先端データが切り拓く未来』 概要報告

### 1. プログラム

- 開会挨拶  
藤井 比早之（国土交通大臣政務官）
- 基調講演「気象衛星ひまわりと共に」  
堀川 康（元 JAXA 理事、元国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）議長）
- 講演「宇宙から地球を見つめて 40 年～静止気象衛星「ひまわり」～」  
宮本 仁美（気象庁観測部気象衛星課長）
- ミニプレゼン&パネルディスカッション「新世代の静止気象衛星の利活用」  
パネリスト：  
井田 寛子（気象予報士、TBS「あさチャン！」気象情報担当）  
可知 美佐子（JAXA 地球観測研究センター 研究領域主幹）  
郷原 健（損害保険ジャパン日本興亜株式会社 企業商品業務部 課長代理）  
佐々木 華織（農研機構 農業環境変動研究センター 主任研究員）  
堀川 康（元 JAXA 理事、元国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）議長）  
三好 建正（理化学研究所 計算科学研究機構 データ同化研究チームリーダー）  
宮本 仁美（気象庁観測部気象衛星課長）  
司会・コーディネーター： 鈴江 奈々（日本テレビアナウンサー）
- 閉会挨拶  
橋田 俊彦（気象庁長官）

### 2. 概要

- 開会にあたり、藤井比早之国土交通大臣政務官より「国土交通省生産性革命プロジェクトとして気象情報の産業分野での活用について取り組んでおり、本日のシンポジウムを通じて、最新の気象衛星ひまわりの活用の新たな分野が拓かれることを祈念している。」旨挨拶がありました。
- 基調講演として、元 JAXA 理事の堀川氏より、気象衛星の開発に長年携わった経験をふまえ、気象衛星ひまわりと共に歩んだ 40 年間についてご紹介頂きました。
- 続いて、気象庁気象衛星課長の宮本より、気象庁における静止気象衛星の運用の歴史と、世界最先端であるひまわり 8 号の観測データの利活用について紹介しました。
- さらに、パネルディスカッションに先立ち、各パネリストからは、天気予報や防災、地球環境観測、農業、保険といった様々な分野における気象衛星データの利活用の現状と可能性について、ご紹介頂きました。
- 最後のパネルディスカッションでは、会場にお越し頂いた皆様から頂いたご質問などもふまえ、新世代のひまわり 8 号・9 号の最先端データが切り拓く未来について討論を行いました。
- 気象衛星の観測性能の向上により精度が上がった気象情報を防災・減災に活かしていくにはどうすればよいかという議論では、井田氏より、マスコミにおいてそ

ういった進歩した情報をどう整理して伝えていくかがこれからの課題であるとの見解が示されました。

- ひまわり 8 号・9 号の強みである高頻度・高解像度・多バンド観測を研究の分野で今後いかに活用していくかという議論では、三好氏より、ひまわりのデータは研究分野でもまだまだ活かしきれていない現状について説明があり、最先端の研究で未来にどんなことができるか、夢を描いてそれを実現していくことが重要とメッセージが送られました。
- 最先端の衛星データを用いた国際協力やビジネスでのさらなる利用についてどのようなことに期待するかという議論では、可知氏より、地上観測網が乏しいアジアや南太平洋の国々では衛星データが洪水予測や台風及びサイクロンの監視に役立っている旨紹介がありました。佐々木氏からは、台風に伴うフェーン現象が稲に与える被害を一例に、台風の進路予測精度が向上すれば事前の対策が実施しやすくなるなどの期待が述べられました。また、郷原氏からは、オープンでフリーなデータプラットフォームを作ることでビジネス利用においてもトライ＆エラーでのアイデア出しができるようになるとの期待が述べられました。
- パネルディスカッションの締めくくりとして堀川氏からは、気象衛星を使った天気予報の精度向上はもちろんのこと、中長期の予報、地球温暖化などが将来どういう傾向があるのか、その中で我々の社会経済活動をどうすべきかについて研究することも大事だという見解が示されました。
- 閉会にあたり、気象庁長官の橋田より「科学技術の発展、産業分野における生産性向上、国際社会への貢献などについてともに考え、気象衛星データを使って未来を切り拓いていくことを議論する良い機会となった。40 年目の記念のシンポジウムに参加していただいた皆様にお礼申し上げます。」旨挨拶しました。

### 3. 会場の様子



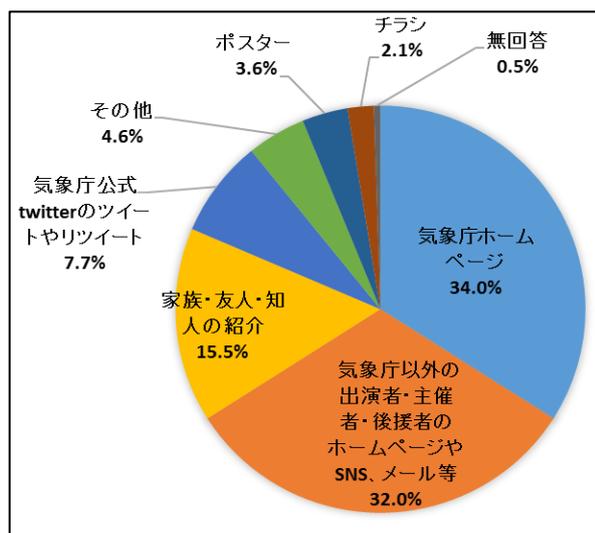
基調講演



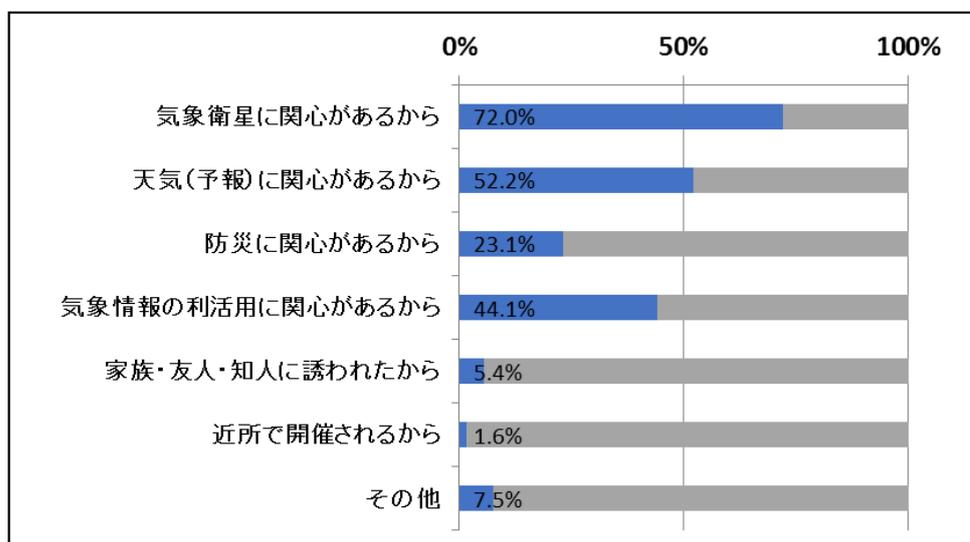
パネルディスカッション

#### 4. 会場内アンケート結果

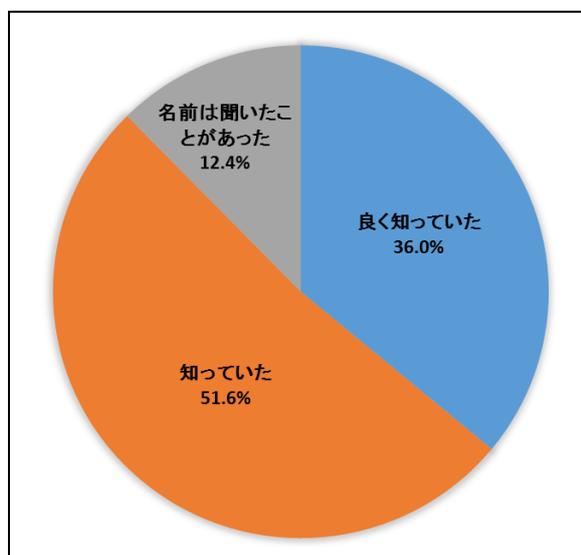
問 シンポジウムの開催をどのようにお知りになりましたか。※複数回答あり



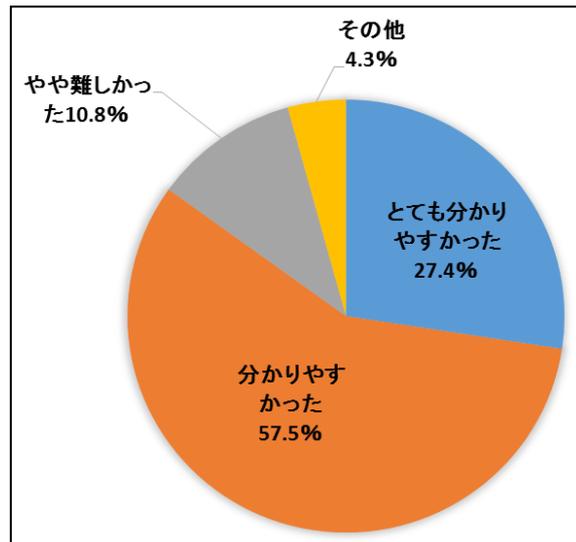
問 シンポジウムに参加しようと思ったきっかけは何ですか。(複数回答可)



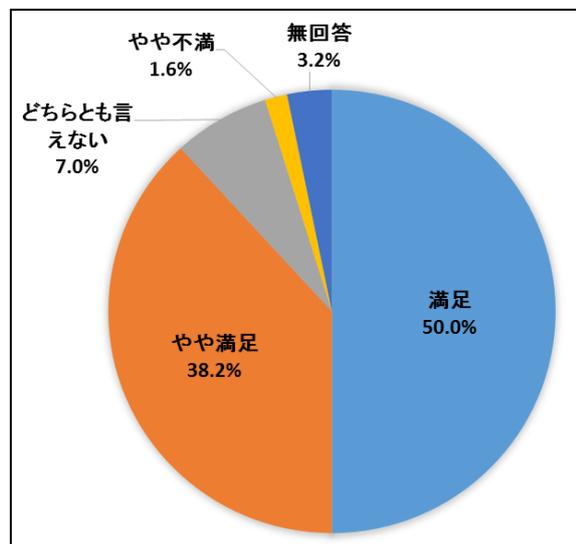
問 シンポジウムに参加されるまで「気象衛星ひまわり」についてどの程度知っていましたか。



問 今回のシンポジウムの講演やパネルディスカッションは、分かりやすかったですか。



問 今回のシンポジウムについて、満足度をお聞かせください。



問 「気象衛星ひまわり」に対して考えること、今後期待することがあれば、お聞かせください。(一例)

- ・ひまわりのデータを多くの分野でより活用しやすくすること、また、深化させることで有効利活用を図ってほしい。
- ・さらなる技術開発を行って、より精密で高い確率で天気予報ができるようになることを期待する。
- ・既に身近な、なくてはならないものになった「気象衛星ひまわり」、次は第2フェーズで、より精度の高い観測、長時間の観測ができるようになり、「天気予報」からより多くのビジネスへの利用を期待する。
- ・静止気象衛星ひまわりによる観測を継続すること、国内外及び広い分野への貢献が重要である。
- ・気象衛星観測データをオープンデータとしてもっと多く公開してほしい。
- ・まだまだ使われていないデータもあるというお話だったので、それらのデータを使い今後もっと精度の良い気象情報が提供されることを期待する。
- ・他分野との様々な連携の可能性を踏まえて、次期ひまわりに反映されればと思う。
- ・地球温暖化によって昔にはない変化が出てくると思う。変化に早く発見・対応できるような情報の発信・解析に役に立てるデータ蓄積をしてほしい。